

事業報告書

事業名 おうめ若者カフェ



1 実施団体

(特) 子どもと文化のNPO子ども劇場西多摩

2 担当課

市民活動推進課 社会教育課

3 実施時期

平成 25 年 4 月～平成 26 年 2 月

4 参加者

市内外の 18 才以上 39 才までの若者世代及び一般のべ 754 名

5 実施場所

青梅市福祉センター及び市役所会議室

6 事業の目的

市民活動団体や自治会活動の中に、若者たちの姿が減少し、高齢化が将来の課題として大きくなって来ている。一昨年より動き出した、おうめ若者カフェ(若者たちがゆるやかに繋がりながら、青梅のまちづくりを考える)のネットワークを継続しながら、若者が地域・まちづくりの担い手となるための講座(学び)を開催する。青少年リーダー講習に参加した人たちにも、つながりの場となるように参加を呼びかける。

7 役割分担

・団体の役割

- ① 若者ネットワーク作りの呼びかけと運営。
- ② 講座の内容の準備、開催、運営をする。

・担当課の役割

- ① 若者ネットワークのつどいへ参加し課題の論議や市政の現状などをアドバイスする。青少年リーダー育成研修会OBへの参加呼びかけをする。
- ② 講座の内容の準備、開催、運営。
- ③ 広報やHPを利用して講座の周知
- ④ 青梅市施設の利用（ネットワークの集い・講座）
- ⑤ 経費の負担

8 事業の効果（どのような地域課題が解決できたか）

地域活動にほとんど参加することのない若者世代（18才～39才位まで）が、自分の住んでいる「青梅」という“まち”に関心を持ち、まず関わるスタートの場をつくることは、「おうめ若者カフェ」の大きな役割と認識しています。実際に今年度も、今までどこの団体にも属さずにいた大学生2名が、広報をみて、自分も何かしてみたいと参加し、実行委員になったことがとても印象的でした。そして、具体的な取り組みをつくったことで、若者が青梅を知り、青梅の人と出会いました。講座やステージイベントを終えた若者の感想に「青梅にはこんなことをできる場所、できる人がいるのだと分かりうれしかった。」とありました。まちの人と出会い、活動すれば、若者は必ず自分の住んでいる青梅を好きになり、その土地に住み続けます。大きく言えば、青梅市の納税者を増やし、これからの青梅市の未来を考える力の1つになると考えています。若者カフェの年齢対象でない方が、若者がなにかやろうとしている！と関心を寄せて下さっていることも大変うれしく感じました。

9 目標達成

事業の目標：若者ネットワークの集いを約20名で5回開催する。

まちづくりをテーマとした講座を40名で2回開催する
目標の達成具合：つどいを5回、講座を2回、計画通り行うことが
できた。人数は以下の通り。

つどい1：18名、つどい2：20名、第一回講座：
54名、つどい3：22名 つどい4：18名

第二回講座：41名 つどい5：21名

特に講座は毎回目標人数を上回ることができ、
一般市民にも好評だった。

10 事業の実施内容

*25年5月26日(日)

つどい1「おうめ若者カフェの主旨説明及び実行委員会結成」

*25年7月6日(土)

つどい2「長期目標・短期目標の提示・9月の講座についての討議」

*25年9月22日(日)

第一回講座「社会的起業と地域活性～まちづくりってなに？」

講師：日下部尚徳氏（文教学院大学助教授）

*25年10月6日(土)

つどい3「講座1のまとめ・おうめ若者100人ステージ打ち合わせ」

*25年11月16・17日(土・日)

ステージイベント：おうめ若者100人ステージ@東栄座

*25年12月1日(土)

つどい4「おうめ若者100人ステージまとめ・1月の講座について」

*26年1月26日(日)

講座2「まち活動をバージョンアップ！」

講師：國廣純子氏（タウンマネージャー）

*26年2月23日

つどい5「一年間のまとめと課題・次年度に向けて」

他7回のおうめ若者カフェ実行委員会を開催。

11 実施団体と担当課の事業評価

4 はい 3 どちらかといえば「はい」 2 どちらかといえば「いいえ」 1 いいえ

調査項目	団体	担当課
(1)事前の話合いを十分に行い、役割分担は明確になっていた	4	4
(2)事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	3
(3)協働の役割分担は適切だった	4	4
(4)協働相手は適切だった	4	4
(5)対等な立場での協力関係を築けた	4	3
(6)協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
(7)事業実施は円滑になされた	4	3
(8)設定した目標が達成された	4	4
(9)協働で行うことにより効果がある事業だった	4	3
(10)今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3

12 まとめ（今後の課題や改善点など）

つどい5のまとめの会で以下のような意見が出されました。

*協働事業により市の広報だからこそ情報が伝わった人もあり、逆にフェイスブックなどの媒体や個人的な声かけで繋がった人もあった。行政と協働することの意味は大きかったが、全体的に広報不足が感じられた。

*実行委員会の6名の他、毎回のつどいにも継続した参加者が多く、活動をやりたいという気持ちになった人が増えた。さらに担い手を増やしていきたい。

*おうめ若者カフェがどんなものなのか、語って伝えることのできる人が少なかった。次年度はより言葉にしていくことが必要。

このようなまとめを受けて、次年度の計画も立てています。引き続き、若者カフェの活動が広がっていくよう努力していきます。

13 その他

まち活動に関わることで、生活にメリハリができた。など、おうめ若者カフェがあることで、イキイキと生活できる人が見えてきました。個人の生活の質をあげることに繋がったことも、おうめ若者カフェの意義を感じました。